

指導資料

総合的な学習の時間 第 12 号

小，特別支援学校対象



鹿児島県総合教育センター

平成 20 年 10 月発行

探究的な学習を実現する総合的な学習の時間の在り方

平成 10 年の学習指導要領改訂により、生きる力の育成をねらいに、総合的な学習の時間が新設され、これまで各学校で様々な実践が行われてきた。学校や地域の特色を生かした意義ある実践が数多く展開されてきたが、一方で下記のような課題も挙げられている。(平成 20 年 1 月の中央教育審議会の答申から)

当初の趣旨・理念が必ずしも十分に達成されていない状況や学校種間の取組の重複も見られることなどから、総合的な学習の時間のねらいを明確化するとともに、子どもたちに育てたい力(身に付けさせたい力)や学習活動の示し方について検討する必要がある。

趣旨やねらいとは違った活動が見られることなどから、関連する教科内容との関係の整理、中学校の選択教科との関係の整理、特別活動との関係の整理を行う必要がある。

こうした課題を受け、平成 20 年 3 月に告示された新学習指導要領において、総合的な学習の時間の目標が設定され、総合的な学習の時間においては、実社会や実生活とのかかわ

りを重視するとともに、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な活動を行うことがより明確にされた。

特に、「探究的な学習」については、今回の改訂により加わった文言であり、総合的な学習の時間の見直しの視点と今後の方向性を示したものと見える。

1 探究的な学習とは

総合的な学習の時間における探究的な学習とは、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく図 1 のような一連の学習活動(探究の過程の連続)のことである。

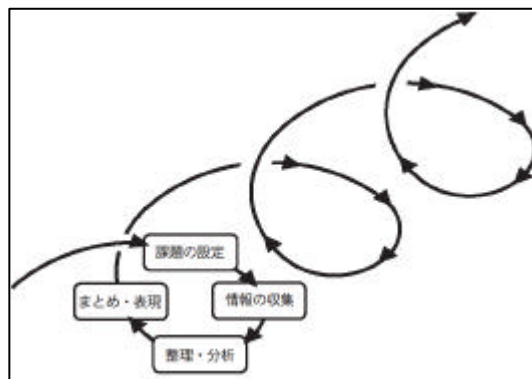


図 1 探究の過程の連続

探究的な学習の意義としては、事象をとらえる感性や問題意識が揺さぶられて、学習活動への取組が真剣になる、身に付けた知識・技能を活用し、その有用性を実

感する，見方が広がったことを喜び，さらなる学習への意欲を高める，概念が具体性を増して理解が深まる，学んだことを自己と結び付けて，自分の成長を自覚したり自己の生き方を考えたりするなどの児童の豊かな学習の姿が期待できる点である。

2 探究的な学習の学習過程

探究的な学習を進めていく上では，次のような学習過程をイメージすることが大切である。

【課題の設定】体験的な活動などを通して，課題を設定し課題意識をもつ。
 【情報の収集】必要な情報を取り出したり収集したりする。
 【整理・分析】収集した情報を，整理したり分析したりして思考する。
 【まとめ・表現】気づきや発見，自分の考えなどをまとめ，判断し，表現する。

具体的には，各学校で図2のような学習の流れを児童に示すことが考えられる。

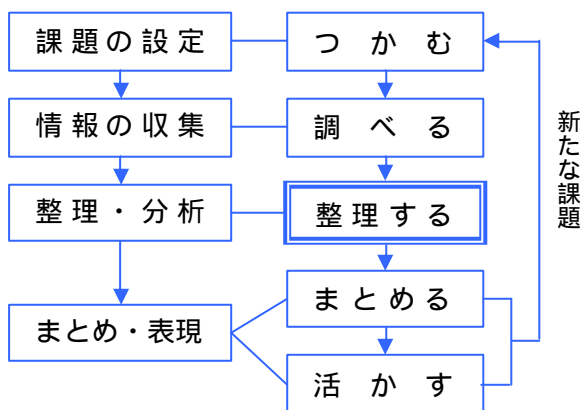


図2 学習の流れの例

3 各学習過程における留意点

(1) 課題の設定

ア 事前に児童の発達や興味・関心を適切に把握し，児童の課題意識を高めるよう教師が意図的な働きかけを行う。

イ 課題意識を高めるために，課題の対象に直接接触れる体験活動を工夫する。

(2) 情報の収集

ア インタビューなどの自覚的な情報収集や，体験を通して無自覚に行う情報収集など様々な機会を設定する。

イ 収集した情報を，ポートフォリオ，ファイルボックス，コンピュータのフォルダなど適切な方法で蓄積する。

(3) 整理・分析

ア 調べる過程で収集したそれぞれの情報が関係付けられるように整理する。

イ どのような方法で整理・分析するのかを明確にする。

* 数値化された情報...グラフなど

* 言語化された情報...カードやマップなど

(4) まとめ・表現

ア 相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり，表現したりする。

イ 各教科で学習したことを振り返らせ，どの表現方法が活用できるかを考えさせる。

ウ レポート，新聞，ポスター，プレゼンテーションなど，多様な方法でまとめたり，表現したりする。

なお，これらの学習過程全体を通して，以下の点に留意することが必要である。

ア 身に付けさせたい力の視点に基づいて，活動のねらいを明確にする。

イ 他者と協同して問題を解決しようとする学習活動を工夫する。例えば，集めた情報を交換し合ったり，多様な考えを出し合ったりする中で，収集した情報を比較・分類・関連付けをしながら課題解決を図る，地域の人や専門家

などと交流することなどが考えられる。
 ウ 言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動を工夫する。分析したことを文章やレポートにまとめたり、口頭で発表したりするなどの活動が必要である。

4 学習活動の進め方

探究的な学習の意義や学習過程の留意点を踏まえた上で、実践例（南九州市立知覧小学校6年生の実践）を基に具体的な学習活動の進め方について述べる。

(1) 単元名「発信！お茶の町 知覧より」

(2) 学習の流れ

ア つかむ（課題の設定）

【児童の実態把握】

健康ブームやCMなどによりお茶に関心を示している児童が多い。しかし、お茶の町に住んでいながら、大半の児童が茶摘みや手もみなどを体験したことがない。



児童の意識・体験の「ずれ」や「隔たり」



【教師の働きかけ】

課題意識

茶業試験場における体験活動



体験を基にした話し合い



【課題の設定】
 自分たちの町の特産物であるお茶について調べ、それを観光客などに紹介する。
 *グループ別課題

- ・ お茶を使ったお菓子や料理のレシピを作る。
- ・ 世界のお茶について調べる。
- ・ お茶と健康について調べる。
- ・ 茶道の歴史や方法について調べる。
- ・ おいしいお茶の入れ方について調べる。

図3 課題設定の流れ

つかむ段階では、図3のように児童

の実態把握を行い、児童の意識と実生活での体験の「ずれ」や「隔たり」に気付かせるとともに、茶業試験場における体験活動により、具体的な学習活動への課題意識を持たせる。

イ 調べる（情報の収集）

調べる段階では、観察・実験・見学・調査・探索・追体験などの学習活動を行うことにより、課題解決に必要な情報を収集する。例えば、本実践のおいしいお茶の入れ方について調べるグループでは、様々なお茶の入れ方によりどのように味が違うか、お茶インストラクターと一緒に実験を行うなど体験活動を取り入れている。（写真1）



写真1 おいしいお茶の入れ方の実験

また、写真2のように、ゲストティーチャー（茶道家）へのインタビューを行うなどねらいを明確にした情報収集も行っている。



写真2 ゲストティーチャーへのインタビュー

ウ 整理する（整理・分析）

整理する段階では、まず、それぞれの児童が収集した情報をグループ内で交流させ、情報を共有化させる。同時に、グループ間で交流させることも大切である。本実践では、「発信！お茶の町 知覧より」というテーマについてそれぞれのグループが調べた情報を共有化することで、考えが深まったり、新しい気付きが生まれたりすることが期待できる。

次に、収集した情報を基に、どのような整理の仕方が適切か話し合わせることが重要である。その際、各教科等で学習したことを想起させ、活用させることが大切である。表1は本実践で行われた整理の方法である。

表1 内容による整理方法

| 方法 | 内 容 |
|-----|----------------------------------|
| 年 表 | ・茶道の歴史 など |
| カード | ・お茶を使った菓子や料理のレシピ ・世界のお茶の種類 など |
| グラフ | ・温度の違いによるお茶のおいしさの違い ・お茶の効能 など |
| マップ | ・お茶畑の分布図 など |

さらに、整理した情報を、比較したり、分類したり、関連付けたりすることで、そのことから何が分かり、何が考えられるのかを分析させる。そして、そのことから自分はどのように考えるのかを言語でまとめる活動を学習過程の中に適切に位置付けることが大切である。

なお、本実践では、調べる段階で中間発表会を開いている。これは、探究

活動を進める上で、よりよい調べ学習を進めるために、活動を修正したり、発展させたりするために効果的である。

エ まとめる・活かす（まとめ・表現）

まとめる・活かす段階では、整理・分析した内容を、他者に伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする活動を行う。本実践では、レシピ作り、紙芝居、ビデオ作成など、多様な方法でまとめを行い、最終的にそれらをもとに、観光客に伝えるパンフレットを作り、配布している。

この活動は、多くの観光客が訪れる地域の特性を活かし、相手意識や目的意識をもたせると同時に、児童に自分たちも地域の一員であるという自覚を促し、今後、自分は何をすべきか、どのようにすべきかを考えさせるきっかけになる取組といえる。

このことは、総合的な学習の時間の目標である「自己の生き方を考えることができるようにする」ことにもつながる。

総合的な学習の時間のねらいは「生きる力」の育成であり、児童がそのねらいに沿った学習活動を行っていくことが必要である。

今後、学習指導要領の改訂を踏まえ、自校の総合的な学習の時間を見直し改善し、それぞれの学校でより充実した学習が展開されることが求められている。

【参考文献】

文部科学省『小学校学習指導要領解説
総合的な学習の時間編』平成20年6月
(教科教育研修課)